（別紙4）　　平成　26　年度

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業所番号 | 3290400385 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 出東福祉会 | | |
| 事業所名 | グループホーム出東ララ（西棟） | | |
| 所在地 | 島根県出雲市斐川町三分市1072－1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成27年2月25日 | 評価結果市町村受理日 | 平成27年4月22日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

| | |
|---|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/ |

【評価機関概要（評価機関記入）】

| | |
|---|---|
| 評価機関名 | 株式会社ワイエム |
| 所在地 | 島根県出雲市今市町650 |
| 訪問調査日 | 平成27年3月10日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・自然あふれる田園風景の中で、同法人運営の保育園園児とふれあうことにより、人を愛しみ、生命を守り、その人　らしさを大切にし支援していきます。
・利用者一人ひとりの「できること」を引き出していき、達成感と意欲を持てるようなサービス（花生け・野菜作り・料理・裁縫等）を提供し、その人らしさを発揮出来るような場を設けていきます。
・一人ひとりの利用者の気持ちに添い、心穏やかで明るい生活を維持出来る様援助していきます。また、ご家族と連絡を密にし、ご家族に安心感をもってもらうとともに、ご家族と利用者との絆を深める役割であることを認識し、支援していきます。利用者は、地域の中の一員であることにより、地域の特性や文化を活かし地域行事等の情報を集め、積極的に参加できる機会をつくっていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

昭和51年に設立された社会福祉法人出東福祉会が、教育、保育、高齢者福祉の拠点として地域に貢献してきたことから、地元での信頼は厚く、開設2年目のグループホーム出東ララは満室である。職員がオープンキッチンでお料理していたり、利用者さんとの会話も優しく自然な感じで交わされ、ゆったりくつろいでいる様子など、利用者さん方と職員は、ともにホームで暮らす家族のように感じられる。隔月に開催される運営推進会議では、参加者も多く、日頃のケア内容から、リハビリのこと、また、非常時避難訓練のことなど、活発に意見交換され、ホームの暮らしの向上に役立てられている。今冬には、流感などもあって、職員は対応に苦慮したが、峠も越えて、利用者さんはお元気で過ごしておられる。若年性認知症の方なども受け入れて、手厚くお世話されており、家族からも頼りにされている。

## Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| | 項　目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|---|---|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいの |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいの |
| | | | 4. ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38） | ○ | 1. 毎日ある |
| | | | 2. 数日に1回程度ある |
| | | | 3. たまにある |
| | | | 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | ○ | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |

| | 項　目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|---|---|---|---|
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19） | ○ | 1. ほぼ全ての家族と |
| | | | 2. 家族の2/3くらいと |
| | | | 3. 家族の1/3くらいと |
| | | | 4. ほとんどできていない |
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20） | ○ | 1. ほぼ毎日のように |
| | | | 2. 数日に1回程度 |
| | | | 3. たまに |
| | | | 4. ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4） | ○ | 1. 大いに増えている |
| | | | 2. 少しずつ増えている |
| | | | 3. あまり増えていない |
| | | | 4. 全くいない |
| 66 | 職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12） | ○ | 1. ほぼ全ての職員が |
| | | | 2. 職員の2/3くらいが |
| | | | 3. 職員の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | | 1. ほぼ全ての家族等が |
| | | ○ | 2. 家族等の2/3くらいが |
| | | | 3. 家族等の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどできていない |

# 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅰ.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | （1） | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 地域の一員として、安心して暮らすことが出来るよう理念に基いて職員と共に共有して実践に繋げている | 認知症になっても、地域での暮らしが続けられるということを、人々の意識に働きかけたいという事業所長の思いは、「ホームは家の離れのようなもの」という、とらえ方で、利用者さんが入居後も自宅でも過ごせるように計らうなど、利用者さんの立場に立ったケアにも現れている。 | |
| 2 | （2） | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 開所して2年目になるが、日々地域との信頼関係を深めることの大切さに努力している。同法人運営である保育園・デイサービスとの繋がりから、地域の馴染みの住民との関わりを続けていき、事業所に関心を持っていただくように努めている | 法人が今まで培ってきた地域住民とのふれあいや協力関係をホームでも継続しながら、地区で初めて開所した入居事業所ならではの、終のすみかとしての居心地の良さや、個別の暮らしを創造していける可能性などをも、利用者さんと共に工夫していけるよう地域住民への働きかけを行っている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 民生委員の方や地域のボランテイアさん等の訪問や近隣小学生の学習の一環として、事業所の内容・高齢者の心理を理解、支援に繋げていけるよう努力している | | |
| 4 | （3） | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 出東ララでの取組みを伝え、委員からの意見をその都度取入れ、振返りにて実践に繋げている | 2ヶ月毎に開かれる運営推進会議は、参加者も多く、日頃のケア内容から、リハビリのこと、また、非常時避難訓練のことなど、活発に意見交換され、ホームの暮らしの向上に役立てられている。 | |
| 5 | （4） | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 現状報告や相談等を面談や電話を通じて助言を頂きながら、日々取組んでいる | 市の担当者とは、顔の見える関係を築いており、開所当初から、利用者が抱える様々な問題について相談したり、入院などで空いた部屋を短期入所として利用してもらったり、負担軽減措置の事例など、運営や制度のことも指導を受けてきた。 | |
| 6 | （5） | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束について、事業所内での考え方等を、職員間で話し合い、互いに勉強し統一したケアに取組んでいる | 施錠はしないで、外へは自由に出られる。声かけや会話の中で、利用者さんの行動を抑制することのないよう日々のミーティングで話し合っている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | 職員の共通意識を図るとともに、専門職で従事していることへの自覚が持てるよう見過ごしのないように注意し防止に努めている | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 学ぶ機会を持てるよう事業所内で資料回覧し関心持ち学習の場にしている | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 変更等ある場合には、必ずご家族に文章にて報告すると共に、面会時には、個別に説明をし、理解を図っている | | |
| 10 | （6） | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議、ご家族との清掃奉仕、家族会等には前もって案内文を出し、出来るだけ参加して頂くようにしている。又、面会時には管理者から声かけをかけ、日頃感じていらっしゃること等を話してもらう機会を設け運営に反映させるよう努めている | 家族は、利用者さんについて、どんな暮らしをしているのか知りたいし、それを知らせることで、家族が本人の暮らしをイメージして、いろいろな意見が出せると考え、利用者さんの暮らしぶりを家族に伝えている。家族からは、本人についての思いや、職員さんやケアについての意見が出され、要望に応えている。 | |
| 11 | （7） | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 年に数回運営に関することや職員の意見や提案を面談方式で行っている | 事業所長、ユニットチーフ、職員が互いに意見を言いやすい雰囲気であり、利用者さんにとって良いことを、最大限取り組む姿勢がある。最近では、職員のアイデアを取り入れて、保育園保管の杵、臼をつかって本格的に餅つきに取り組んで、利用者さんの興味のある活動を促した。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 日頃の職員の表情や勤務に対する姿勢を見て気になる場合には、職員に声かけをしている。職員から自発的に話しが出来るような姿勢や機会、時間を設けている | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員全員が法人外の研修を受けるようにし職員会等にて研修記録を基に報告する場を設けている。又、事業所内での業務に対する考えなども研修や学びの一つとして捉えて行っている | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 研修情報を職員に通知し、積極的に同業者と交流する気持ちをもたせるようには努めている | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| **Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援** | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居決定時に面談し、現状の把握と面識を作り、安心感の構築に努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 申込み時に相談に乗り、入居決定時には実調査に行き、要望等聞き現状把握と信頼関係づくりに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 現在必要とされているサービスを把握し、提案・助言を行い、個別に対応した支援が出来るように努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 個々に合った支援が行えるように、本人の生活歴を知り、サービスの提供に繋げれるよう配慮している。また、共に過ごせる場を持ち、支えあえる環境を築けるよう努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族の方とのコミュニケーションが取れるようにし努め、家族様へお伝えする事や家族様からの要望等全職員が把握出来る様ノートに記入し周知している | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 利用者さんとの会話で話題となった馴染みの場へ外出したり、地域の行事へ参加し馴染みの方と合われるなど関係がとぎれないよう努めている。 | 地元からの入居が多いことで、公民館でのふれあいで、知人に会える機会は多い。食事づくりのための食材や日用品の買い物で、近くのスーパーに行ったりして、会話するなど家族の面会だけでなく、馴染みの人に会える機会がある。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 個々の性格や馴染みの関係を把握し孤立される事のない様努めている。又、時には隣ユニットの方との交流により楽しく談話等される方もおられる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居されてからも、利用者様に面会に行ったり、家族様とも交流が持てるよう努力している。 | | |
| **Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント** | | | | | |
| 23 | （9） | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 一人ひとりの希望、意向を伺い、出来る限り対応出来るように努めている。困難な場合は家族にも相談し、ご本人にとってより良い状態が保てるよう考慮している。 | 認知症のために、自分の思いを表現できないことがある。認知症の方の表情が今ひとつ明るくならないので、何故そうなのかを理解することで、対応を考えていくようにしている。ゆっくり時間を掛けて、人柄や病気を理解してゆき、その方の幸せな暮らしづくりを考えている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 一人ひとりのこれまでの生活状況や環境を情報収集し、ご家族からも伺い把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎月のユニット会の中で一人ひとりの状態の変化や日中の過ごし方等個別に話し合う時間を設けており把握に努めている。 | | |
| 26 | （10） | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご本人・ご家族からの希望を伺いながらユニット会の中で話合い日々のケアに生かし、より良い暮らしをして頂けるようなプラン作りに努めている。 | 2つあるユニット毎に介護支援専門員が配置されており、多くの情報をもとにアセスメントして、ケアプランが作成されている。認知症になってもその人らしい暮らしができるグループホームとしての介護計画となっている。家族も作成に参加し、計画を承認している。 | ゆったりとした暮らしの中にも、利用者さんが全身を動かすような視点を持ち、少しづつ取り入れていかれることを期待します。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個々の様子を日々のケース記録に残し職員間で情報を共有している。又デイリープログラムにプランの内容を記入により実践している。チエックする事により次回の見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご本人の状況により、ご家族と相談して職員との一日帰宅を計画した。実際はご家族の方のみで対応されたが、柔軟な支援やサービスが行える様に努める。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 近隣での行事に参加してボランテイアの方との交流、季節の行事等を通して安全で豊かな暮らしを楽しんで頂ける様努めている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ご本人、ご家族の希望された主治医の往診、受診をご家族と共に協力し支援している。かかりつけ医と事業所が連携をとれる様努めている。 | 地元からの入居が多いことから、かかりつけ医に継続して受診できる。通院が難しい方には、在宅診療の医師が往診に来てくれる。家族は、本人の健康管理の応対に満足している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師が在中しており、毎日相談し支援に繋げている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院前後情報交換を行い、連携をとり、入院中は、状況把握に努めている。退院時にはカンフアレンスに参加し、関係づくりを行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化される前の段階にて医師、看護師、ご家族の方とカンフアレンスを開き方針を共有し、チームで支援に取り組める様努めている。 | 重度化しても、ずっとこのホームで暮らしてほしいと言う家族は多い。利用者さんひとりひとりが、それぞれ事情が異なるため、よく話し合って今後のことも対応している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 利用者、ご家族とのカンフアレンスを行い、速やかに急変時の対応が出来る様に努めている。又、消防署で職員全員が研修を受け訓練を行った。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 避難訓練や地域の消防団や地域住民の方達にも参加して頂き全職員も参加し行った。水害時の避難経路についても運営推進会議等で確認し合っている。 | 地元消防団や近隣住民の協力の下、日中だけでなく、夜間想定の避難訓練も行われている。運営推進会議で、訓練について詳細に状況の検証が行われ、今後の避難についての改善策が出されている。 | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| **Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援** | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 対応の仕方や声かけ等常に自分で心がけ、職員間でも指摘を適宜行い振り返りを行っている。 | 部屋にはノックをしてから入る。排泄の誘導には、「ちょっとこちらまで」など、周囲にそれと悟られることのない声かけに気をつけている。また、それまでの人生における役職や立場などにも配慮した会話に心がけている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 一人ひとりの思いの表し方を理解把握し、本人に会った思いの表し方が出来る様に関わりを大切にするよう努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | その日の一人ひとりの体調やペースに合わせ出来る限り希望にそえるように努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | その人に合った身だしなみが出来るよう支援している。ご本人やご家族の希望を伺い、専門の理容・美容が出来るよう支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 能力に合わせ準備や片付けなどして頂いている。又、季節に合せた料理や時にはお菓子作り等も行っている。 | ホーム独自で食事作りを行っており、オープンキッチンからお料理のおいしそうな匂いがホールにただよっている。献立、買い物など、利用者さんも出来る範囲で参加している。皆で食卓を囲み、ゆったりと、食事を楽しんでいる。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養士からの助言も含め、調理師・職員が栄養のバランスを考えてメニューを作成し食事作りをしている。また、主治医からの個々の栄養値データーも参考にしている。水分摂取量や食事量も個々の必要量を摂取して頂けるよう介助、支援している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 一人ひとりの口腔状態に合ったブラシを使用している。夜間は義歯洗浄剤を使用し、衛生に配慮している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チエック表にて一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレでの排泄が出来る様支援している。又、おむつの使用を減らすことを心がけ個々に合ったおむつの検討を常に行っている。 | 入居後約1週間で排泄パターンを把握した後は、トイレで排泄できるよう誘導している。繊維の多い食事、水分や運動など、排便への配慮も利用者それぞれに細やかな配慮をしている。トイレは清潔で掃除が行き届いており、排泄物の臭いもない。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘対策を個別に対応（水分・食材・運動）し、又下剤も用意しながらコントロールしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 一人ひとりの希望に添い、毎日入浴希望があれば対応している。拒否がある場合には、時間や声かけ等工夫をし、二日に1回は入浴して頂けるように支援している。 | 入浴の時間帯は、利用者それぞれで違えている。皮膚の乾燥などに配慮して、泡で洗ったり、石けんをあえて使わないなどしている。浴室は清潔で明るく、木の香りがしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 個々の希望や体調に合わせゆっくり休憩や安眠出来るよう支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 一人ひとりの服用されている薬の内容目的、副作用等記入されている。一覧表がいつでも確認できるようにしてある。又事業所内研修等を行い一人ひとりの薬について勉強し理解している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 個々に合った役割を持っていただいたり、日によって楽しみごとを変え気分転換をして頂けるよう努めている。又、季節感を生活の中で感じて頂ける様努めている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ドライブやコミュニテイセンターへの喫茶、散歩等一人ひとりの体調や希望に合わせ行っている。今年の初詣は一人ひとりの氏神様へお参りに出かける等個々に対応し実行出来た。 | ホーム周辺には、小学校や幼稚園、保育園、デイサービスなどがあり、子どもたちとふれ合いながら散歩を楽しめる。自然に恵まれ、市街地も近いため、買い物やドライブなどでの行き先も多く、日常的に外出している。 | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご家族やご本人の希望により財布を持っていらっしゃる方もある。お金を使われる事はないが持っていることで安心感がある。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望時、職員が間に入り、電話をかけられるよう支援している。携帯電話を持っていらっしゃる方もある。又、手紙を書かれ送られる支援も行っている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ソファ、ベンチが共有フロア、廊下にあり気の合う利用者同士で使用されている。光もその時に合わせた明るさを調節しており、温度や湿度も一定に保ち過ごしやすいように努めている。 | 築地松に囲まれた斐川平野の民家をモデルにしたという木造平屋建てのホームは国産の木材がふんだんに使われており、外観、内部環境ともに和の落ち着いた雰囲気を醸している。風景を眺められるホールは、明るく清潔で、キッチンからの料理の匂いも漂って、アットホームさが感じられる。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 独りで過ごせる場所や数人で過ごせる場所が所々あり思い思いの所で過ごして頂けている。又時には季節により場所をかえる等の工夫をしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご本人が使い慣れている物を持参して頂き、居心地の良い場となるよう工夫し、写真や思い出の品など飾り個性的な空間になっている。 | 居室で過ごす時間も大切な暮らし。その人らしく、また、プライベートを大切にして、個性を表現出来るよう利用者さんと家族、職員が話し合い、必要な家具を置き、小物、花などで飾り付けをしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 個々の出来ることを把握し、活動して頂けるよう努めている。安全な生活が送れるよう環境を整えている。 | | |